

(別紙様式)

# 金沢市立東浅川小学校

〔はじめに〕

本校は、医王山の麓に位置し、明治6年に湯ノ谷村立袋小学校として創設し、昭和32年金沢市立東浅川小学校として発足した。現在、全校児童数は36名、教職員数は11名である。

校区には金沢市を代表する河川、浅野川が流れており、金沢の奥座敷である湯涌温泉への路線は、ゆずの栽培がさかんで「ゆず街道」と呼ばれている。自然が織りなす四季折々の表情を身近に感じることができる豊かな自然に恵まれた環境にある。

今年度ユネスコスクールの認定を受け、環境や伝統・文化を主要テーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

## 浅川地区ってどんなところ？

「人・もの・こと」とのかかわりから

### 1 ユネスコスクールとしての取組

#### 全校での取り組み

##### 「Asakawa 太鼓と兵四郎節の伝承」

東浅川校区にて盛んに活動が続いている「銚子太鼓」の流れを汲み、本校独自の太鼓の取り組みとして平成18年から「Asakawa 太鼓」の活動が続いている。平成24年に新しく作った本校のオリジナル曲「はばたけ浅川っ子 ～〇〇の音色（ねいろ）～」をベースにアレンジを加えながら伝承していきたい。毎年、7月から10月までの4ヶ月間の取り組みになるが、7月には「銚子太鼓」から指導者を招いて、太鼓の基本を学ぶことから始めている。全校児童を縦割り班でA、B、Cの3グループに分け、上級生が下級生を指導しながら仕上げていくことが児童の人間関係作りや全校のまとまりに大いに役立っている。

演奏を披露できる機会は3回あるが、その中の1回である東浅川公民館と合同開催している文化祭では、参加者から多くの笑顔と拍手をもらうことで、自分たちが地域の役に立っていることを実感することができることも太鼓伝承の大切さも感じることができている。

兵四郎節は、地域に伝わる踊りである。辰巳用水作りに深く関わりを持った板屋兵四郎の偉業を後生に伝えていくために作られたと聞いている。本校では、5月に東浅川公民館と合同開催される運動会で地域の方々と一緒に踊っている。毎年、運動会前に地域在住の「兵四郎節保存会」の方に来ていただいて指導を受けている。その際に振り付けが何を表しているのかも教えていただき、当時の工事がとても大変だったことを知る機会になっている。児童は、運動会だけでなく地域の盆踊りや行事の時にも踊る機会があり、兵四郎節が地域との交流の一助になっている。



### 「ふれあいコンサート」

本校では、毎年8月に、地域にある社会福祉施設「第二朱鷺の苑」と障害者支援施設「ふじの木寮」との交流活動として「ふれあいコンサート」を行っている。音楽の授業で学習した歌や合奏を披露しているが、多くの人たちの前で演奏するという目標が児童の学習意欲の喚起につながっている。また、メッセージを書き入れた手作りの葉も渡している。地域で生活している人々のことを知るとともに心の触れ合いの大切さも実感できている。



第二朱鷺の苑にて

### 学年での取り組み

#### 「まちをたんけん大発見」2年生（生活科）

浅川校区の中で、子どもたちが行ってみたい場所を聞き取り、その中から、辰巳用水と深い関わりを持つ板屋兵四郎が祭られている「板屋神社」、モリアオガエルの生息地になっている「袋板屋の沼」、化石や標本など自然に関する多くの資料が保存されている「自然史資料館」、地域に1軒だけある自慢の魚屋である「大辺鮮魚点」の4カ所を選び見学した。

地域の自然や歴史、住んでいる人の思いに触れ、自分たちの生活が地域と深くかかわっていることに気づいた。自分たちの育った土地に愛着を持つと共にこれからも地域と楽しくかかわっていきたいという思いをもった。



モリアオガエル

#### 「里山と浅野川」5年生（総合的な学習）

学校の近くには、毎年、鮎の放流体験をしている浅野川、熊や猪、猿の出没情報をよく耳にする里山があり、子どもたちは恵まれた自然環境の中で生活をしている。「生き物との共存」というテーマで自然に目を向けたとき、子どもたちの中に「浅野川は本当にきれいなのだろうか?」「山の木は切った方が良いのか、切らない方が良いのか?」という疑問が生まれた。その疑問を解決するために、川については自然史資料館の先生、山については森林再生課の職員の方の助言を得ながら学習を進めた。



川については、パックテストや生き物さがしを実施し、上流の水はきれいだが、中流や下流の水はきたないという結果がでた。しかし、汚い水にも生き物は住んでいる事実を知ることができた子どもたちは、生き物たちのために自分たちに何ができるかということを考える機会を持つことができた。



山については、間伐が必要であることを知り驚いていたが、光合成や食物連鎖と関わりがあることを知り納得していた。実際に山林での間伐体験をし、間伐材を使っての鉛筆作りや時計作りも体験することができた。また、夏季休業中にマルテ教室が間伐したスギ板張になったことも学習の助けになった。この学習がきっかけで、「里山の手入れはできているか?」というテーマで統計グラフコンクールにも応募した。

## 2 成果と課題

ESDの視点を取り入れて、他教科との関連を考えながら「生活科」「総合的な学習の時間」の学習を中心に、浅川の「人・もの・こと」に積極的に関わり、自分の目で実際に見て、手で触れて体験することができた。そこから地域の環境や伝統文化に対する子どもたちの関心が高まった。今後は、これらの学習を持続・発展させていくことができるよう、「つきたい力」を明確にし、学習内容を精選したり教科学習との関連について工夫を行っていくことが必要だと考えている。